

インフルエンザの 予防接種を 受けましょう!

監修
公立大学法人福島県立医科大学
医学部小児科学講座
主任教授 細矢 光亮 先生



インフルエンザワクチンの接種をご希望の方は、当院窓口でお申込みください。

インフルエンザの予防接種を受けましょう

インフルエンザは、流行に伴う個人的・社会的損失がたいへん大きく、十分に警戒が必要な疾患です。予防接種を行うことで、インフルエンザによる重篤な合併症や死亡を予防し、健康被害を最小限にとどめることが期待できます。積極的にインフルエンザワクチンの接種を受け、発症、重症化を予防しましょう。



合併症を起こすリスクの高い方(ハイリスク者)は積極的に予防接種を受けてください

- ◆**65歳以上の方**（勸奨接種として国がワクチン接種をすすめています。市区町村など自治体からの補助が受けられる場合がありますのでご相談ください。）
- ◆**高齢者施設入居者**
- ◆**気管支喘息などの呼吸器疾患、慢性心不全、代謝性疾患(糖尿病含む)、免疫不全、腎不全などの基礎疾患を有する成人および小児**

ご家族や職場などにハイリスク者がいる方は、ハイリスク者にインフルエンザをうつす可能性があるため、ワクチン接種が望まれます。

インフルエンザの流行型

インフルエンザは、毎年、流行するウイルスの型が変わります。
特に近年はA型2種類、B型2種類のウイルスが混在して流行
しています。

2015/16シーズンより、インフルエンザワクチンは4種類の
インフルエンザウイルスに対応しています。



インフルエンザを軽くみては危険です！

インフルエンザの感染力は非常に強く、毎年約1千万人が
感染しています。特に高齢者の方や呼吸器疾患、循環器
疾患、糖尿病などの基礎疾患をお持ちの方がインフルエ
ンザに感染すると、入院が必要となったり、最悪の場合
は死に至ることがあります。

また、小児ではインフルエンザに合併して急性脳症が起こる
ことがあり、死亡や後遺症など、深刻な問題になっています。

合併症について

高齢者

高齢者がインフルエンザにかかった場合の合併症としては、肺炎が一番多いと言われています。

乳幼児

乳幼児（主に6歳以下）がインフルエンザにかかった場合は、合併症としてインフルエンザ脳症を引き起こす可能性があります。

予防接種を受けるときの注意点

- インフルエンザワクチンの必要性や副反応について不明な点がある場合は、予防接種を受ける前に医師と十分相談しましょう。
- 受ける前日は入浴(またはシャワー)をして、体と着衣を清潔にしておきましょう。
- 当日は体調をよく観察して、普段と変わったところがないことを確認してください。
- 予診票は医師に対する大切な情報です。正確に記入してください。
- 予防接種を受ける方がお子さんの場合、母子健康手帳を持っていきましょう。

インフルエンザワクチン
接種予定日

月 日()曜日

当日は受付に _____ 時 _____ 分頃おこしてください

医療機関名



田辺三菱製薬株式会社

5IN-303H-
2019年8月作成
(審)19VII064